

氏名	野 上 尚 之
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 号
学位授与の日付	平成16年3月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Phase I study of docetaxel and irinotecan in patients with advanced non-small-cell lung cancer (進行非小細胞肺癌患者におけるドセタキセル及びイリノテカン併用療法の臨床第I相試験)
論文審査委員	教授 清水 信義 教授 五味田 裕 教授 白鳥 康史

学位論文内容の要旨

現時点での進行非小細胞肺癌の標準的化学療法は cisplatin(CDDP)と新規抗癌剤の2剤併用療法と思われるが、CDDPは末梢神経障害、消化器症状、腎毒性など高度の毒性があり、入院加療を行われなければならない生活の質が大きく損なわれる。本試験の目的は、進行非小細胞肺癌患者において CDDP を含まない docetaxel(DCT)と irinotecan(CPT)による non-platinum の新規抗癌剤2剤併用療法の安全性と効果を評価することで、主要な毒性は好中球減少であった。本試験の結果、第II相試験の推奨用量は DCT 50-60mg/m²、CPT 150mg/m²と考えられ、効果に関しても、本試験の33%の期待奏効率は、non-platinum の他の報告と同等だが、生存期間中央値13.6ヶ月、1年生存率55.6%は他の報告より優れていた。また薬剤投与量と奏効率には相関がなく、RD以下の投与量でも奏効する症例があった。

論文審査結果の要旨

本研究は、進行非小細胞肺癌に対する化学療法について、CDDPを含まない docetaxel (DCT)と irinotecan (CPT)による non-platinum の新規抗癌剤2剤併用療法の安全性と効果を評価するものである。現在広く使用されている薬剤には高度の毒性があるため入院加療を必要とし、患者のQOLが大きく損なわれるが、本研究で使用された2剤を併用した場合、主要な毒性について好中球減少が見られたとの報告をしており、本療法の効果を得た、価値ある業績であると認める。

よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。